

アメリカ発! 市民のなかに吹く風

～ THE WIND OF AMERICA 9月10日号 ～

雨上がり独特のむっとした蒸し暑さの中で、早くも最終研修日を迎えました。通勤ビジネスマンたちに紛れ、Times Square 内にある、ホームレス支援 NPO のコモン・グラウンド・コミュニティの入居施設「The Times Square Hotel」を訪ねました。同施設内にて CRA（地域社会再投資法）、NPO における資金調達について、レクチャーを受けました。その後、同施設内を見学。居住スペースは私たちが宿泊しているホテルの部屋よりいい感じかも!?

またランチは、コモン・グラウンド・コミュニティ代表であるロザンヌ・ハガティさんと楽しく会話をしながらすすみ、貴重な時間を共有させていただきました。ロザンヌさんの優しいオーラを感じ、私たち一行は瞬間的に彼女のファンになってしまいました。

午後は YMCA 近くの、Japan Society にて資金調達のレクチャーを受け、解団式（夕食会）では Japan Society の川島さん、宮本さんを迎え最後の NY の夜を皆で名残惜しみました。明日早朝に帰宅の途につきます。お迎えのバスが定刻にきますように…。（吉田）

連邦政府財務省

日米間において、NPO 活動の制度上の相違があることは言を待たないが、企業や個人が得た利益を市民活動や社会に還元するというシステムとその規模は、大きなレベルの差がある。

トーマス氏の講義は、連邦政府財務省として銀行を監督する立場から、800 以上の銀行および銀行がオーナーとなっている持株会社が地域コミュニティ（銀行のある地元社会）に対し、法律に基づいた社会的還元をしているのか、そして財務省がどのように監視をしているのかという内容であった。

具体的には、地域コミュニティの活性化への貢献、低所得者層への融資の促進、融資方法のチェック等を地域社会の代表者とともに評価し、優れた銀行には地域開発の優先や合併の承認等にインセンティブを与えるというものであった。この CRA（コミュニティ再投資法）の実際の運用、実態について、私自身知り得るところではなく、また評価は分かれているところだが、少なくとも現在の日本の金融機関は、こうした役割を果たしていない。

最近、NY 株式市場が低所得者への住宅ローン返済を不安材料として大暴落し、世界経済に混乱を招いたが、こうした動向が銀行等の社会的貢献等の歯止めにならなければと念じたい。

最後に、この研修ツアーも最終日を迎えたが、何とか無事終了できそうである。改めて、青山さん、佐々木（一）さん、事務局の皆さん、そして共に旅を歩んだメンバーに感謝をいたしたい。ありがとうございました。

伊野瀬十三

コモン・グラウンド・コミュニティ

セントラルシティ駅徒歩2分、1K、シャワートイレ付き、独居、ペット1匹可、家賃は収入の3割、築約85年、永住可。マンハッタンのど真中にあるタイムズスクエアホテルは、歴史を感じる広いロビーにグランドピアノがある素敵なおとこです。

これはコモン・グラウンドの運営するホームレス入居施設のこと。今日の午前中、ランチ前の1時間ほどで、スタッフ（青い目の美人）の案内で施設見学をしました。

朝一番のレクチャーを受けた15階の部屋は、高い天窓のやさしい日差しがさしこみ、ピアノが弾ける部屋です。続く屋上庭園には、テナント（居住者）が育てる緑が見事な、バーベキューもできるところになっています。各部屋は、コンロ2口、冷蔵庫、ケーブルTVを完備した環境です。光熱費は自前ですがカルチャースク

ル、イベントの参加は無料です。自立のサポートをするスタッフも充実していますし、何しろ世界のニューヨークのホテルに永住することが出来るのですからウラヤマシイくらいです。

日本との環境の違いはありますが、ボランティアをする側と受ける側との相互の信頼関係に対する考え方が、ここ、ニューヨークでも一緒だと感じました。

佐々木実



まさしくホテルのロビーそのま
まの入居施設一階

ジャパン・ソサエティ

小さくても丁寧に人との関係を紡ぎ、生きる意欲を引き出す活動はボランティアや市民活動こそが担えるもの。そこには人・物・場所の他に資金が重要な役割を果たします。しかし、日本のNPOの資金力はほとんどが脆弱で、資金源が偏った場合も多く見られます。どうすれば多様な財源を確保し、市民主体の活動を支えられるかは、これからの日本社会の課題だと思います。

こんな視点で、Japan Society のダニエル・ローゼンブルム局長からお話を伺えたことはたいへん貴重で、興味深い点がたくさんありました。

例えば、政府に依存しすぎないようにすることが大事という話は、日本のNPOが、今まさに考えなければならないことでした。企業プログラムの話は、資金調達の基本姿勢が支援者側のニーズを意識することにあるのだと改めて考えさせられました。

Japan Society は 1907 年に日米の友好と日本に対する米国人の理解を促進する趣旨で設立された NPO です。あの時代にこうした動きがあったことにも思いを馳せた一日でした。

清水和良

JAPAN SOCIETYの宮本さんからー

本日は当協会へ来ていただき、誠に有難うございました。ローゼンブルムへの皆様のご質問の内容を伺っていると、日本で今どのようなことが問題になり、議論されてい

るのが伝わってきます。

日米関係の理解と促進を進める団体に務める一員として、日本の様々な現場で活躍する方々の生の声が聞けるのはとても大切なことです。皆様ともっといろいろとお話したかったなと思っています。今回の研修ツアーで私が一番印象に残ったのはやはり皆様の『熱意』、その一言に集約されます。どのミーティングでも熱心にノートをとられ、話に聞き入る皆様の姿に頭が下がる思いでした。本当にお疲れ様でした。お気をつけてご帰国下さい。ニューヨークへいらしたときにはまた当協会へ是非お立ち寄り下さい。お待ちしております！ 宮本文子

アメリカ市民運動の財政力

マンハッタンのロウアーイーストサイドにあるテナメント博物館を訪ねると、イタリア系移民一家が一九三〇年代に住んでいた部屋を見ることができます。

その部屋の壁には、キリスト、祖父母の写真と並んでフランクリン・ルーズベルト大統領の写真が貼ってありました。大恐慌後の不況で、なかなか仕事にありつけなかった一家にとって、アメリカにおける福祉政策の基礎をつくったルーズベルト大統領は、そういう存在だったのです。

この博物館に入ると私たちは、遠い国から新天地を求めて移住してきた家族たちの人生ドラマを実感すると同時に、その国の政策や社会の仕組み、そして時代を支配する人々の意識が個々の家族の生活に対して、いかに大きな影響を与えるかを実感することができます。

私が前回、訪問したときに比べると、今回の説明は充実していました。スタッフの数も、ミュージアムショップの商品内容も豊富になっています。主として市民の寄付や入場料・資料の売り上げ益金などによって博物館が成り立っているだけに、資金確保にも一生懸命取り組んでいる様子がわかります。

ニューオーリンズでお会いしたマーサ・ケゲル氏は、既存の市民団体と資金の取り合いになるのを避けるため、政府資金を引き出すよう努力していると言いまし

た。同じホームレスホテルの経営でも、ニューヨークのCOMMON・GROUND・コミュニティのロザンヌ・ハガティ氏は民間資金を集めることから事業を始めています。そしていまでも、資金集めには専門家を配置して相当の努力をしています。担当のキャロルさんの、寄付を集める努力話はとても具体的でした。

ジャパンソサエティのローゼンブルム副理事長は、ロックフェラー3世の遺産を上手に活かしながら各種プロジェクトに対する寄付を集めています。

アメリカにはCSR法（企業の社会的貢献法）があって寄付減税の制度が充実していることは知られていますが、加えて今回は、CRA（コミュニティ再投資法）についての話を財務省の金融監督官から聞きました。銀行が中低所得者に対する融資を積極的に行い、また彼らに対する市民活動に寄付を行うことを奨励するため、さまざまな制度をつくっています。

私は、日本、アメリカ、それぞれに市民活動の特徴があって、どちらが優れているとかどちらが強力だとかいう問題ではないと思います。たとえば、ニューオーリンズに比べると、三宅島のほうが地域の住民同士の結束は強いと思います。しかし、民間資金を集める仕組みについては、日本の制度を充実していくことが大切だと思います。日本では市民運動の財政力を強くしていくことが必要だからです。

今回の旅行には、一人一人がそれぞれに大変な思いをして参加しました。多くの人に支えられ、協力してもらって成立した旅行です。私がこの旅行を上原さんと共に企画したのは、三宅島の生活支援活動を長く支えている、日本の誇るべきボランティア活動のリーダーたちに、自分たちと同じ気持ちを持ち、同じように社会のために身を粉にして活動する人たちが世界中に大勢いることを紹介したかったからです。それが日本社会の将来にとって役立つと確信しているからです。日本に帰ったら、私たちのこの体験を大いに発信していきましょね。それが世話になった人たちに報いる道でもあるのですから。

青山やすし

日米災害 NPO 交流研修ツアー 9月10日行程

- 午前 コモン・グラウンド・コミュニティ 訪問
 - CRA に関するレクチャー
 - 施設見学
 - NPO の資金調達に関するレクチャー
- 午後 Japan Society 訪問
 - 施設見学
 - 資金調達に関するレクチャー
- 夜 解団式
 - Japan Society 職員の方との交流会



さすがに深夜3時も回ると、まったく言っていないほどお客はいませんが、日本人数人と例のお客以外は……

編集後記

アメリカからお送りする最後の「風」となりまして。これで深夜までの編集作業からはようやく解放。嬉しいような、でもやっぱり寂しいような……アンビバレント・マイハート in NY（なんだそりゃ）。

話は変わりますが、NYでは、このニュースは宿泊先に程近い24時間営業のビジネス・センターから配信してきました。ここは入場無料で、プリペイドカードを購入して、インターネットや原稿出力、コピーなどが利用できる仕組み。編集チームは真夜中の作業室として毎晩通いつめました。

ここにくるといつも必ず出会う、別のお客がいました。

大きなバッグを2つ持った年配の黒人男性です。自分のノートパソコンを持ちこんでいるのですが、なにか作業をするでもなく、いつもずっと居眠りをしています。最初はなんだろうと思っていましたが、すぐに理解しました。

そう、男性はおそらくホームレス。

我々にとっての作業室は、彼にとっては居心地のいい宿でした。

パソコンを持ったホームレス。

笑いたいような、泣きたいような、やっぱりアンビバレントなニューヨークの夜です。（菅野）